

ブラックロック・BEST
(為替ヘッジあり／年2回決算型)

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商 品 分 類	追加型投信／内外／債券	
信 託 期 間	2031年12月15日まで(設定日:2016年12月28日)	
決 算 日	6月15日および12月15日(ただし休業日の場合は翌営業日)	
運 用 方 針	円ベースでの安定的なインカム収益の獲得と中長期的な信託財産の成長を目標に運用を行います。	
主要運用対象	子投資信託	【ブラックロック・BEST(為替ヘッジあり／年2回決算型)】 ボンドETFセレクト・マザーファンド(為替ヘッジあり)の受益証券(以下「親投資信託」といいます。)を主要投資対象とします。
	親投資信託	【ボンドETFセレクト・マザーファンド(為替ヘッジあり)】 先進国(日本を含む)の投資適格債券に投資するブラックロック・グループが運用する上場投資信託証券を投資対象とします。 なお、円建ての債券に投資する場合があります。
組 入 制 限	①株式への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の30%以下とします。 ②外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。 ③上場投資信託証券への実質投資割合には、制限を設けません。	
分 配 方 針	年2回の毎決算時(原則として6月15日と12月15日。休業日の場合は翌営業日)に、原則として以下の方針に基づき、分配を行います。 ■経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益および売買損益(繰越欠損補填後、評価損益を含みます。)等の全額を分配対象額の範囲として分配を行います。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 ■留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。 ※基準価額水準、市況動向等によっては分配を行わないことがあります。将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。	

第19期 運用報告書(全体版)
(決算日:2026年6月15日)

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、当ファンドは上記の通り決算を行いましたので、
期中の運用状況と収益分配金をご報告申し上げます。
今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

ブラックロック・ジャパン株式会社
〒100-8217 東京都千代田区丸の内一丁目8番3号
丸の内トラストタワー本館
運用報告書に関するお問合わせ先
電話番号: 03-6703-4300
(受付時間 営業日の9:00~17:00)
ホームページアドレス
www.blackrock.com/jp/

※ 「ブラックロック・BEST(為替ヘッジあり／年2回決算型)」が組入れている親投資信託の決算は、年1回(12月15日)です。よって直前の計算期間(決算)である2025年12月15日現在の内容を記載しております。

CONTENTS
子投資信託(決算日:2026年6月15日) 「ブラックロック・BEST(為替ヘッジあり／年2回決算型)」
◇ 基準価額の推移
◇ 運用担当者コメント
◇ ファンド状況
◇ 資産状況
◇ お知らせ
親投資信託(決算日:2025年12月15日※) 「ボンドETFセレクト・マザーファンド(為替ヘッジあり)」
◇ 基準価額の推移
◇ 運用担当者コメント
◇ ファンド状況
◇ 運用内容
◇ 資産状況
◇ お知らせ
◇ マザーファンドの組入上位ファンドの概要

◇基準価額の推移

■最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額				投資信託受益証券 組 入 比 率	純 資 産
	(分 配 落)	税 分	込 配	期 騰 落 中 率		
15期(2024年 6月17日)	円	円	円	%	%	百万円
	9,195	0	△1.0	98.7		4,851
16期(2024年12月16日)	9,054	0	△1.5	99.7		4,698
17期(2025年 6月16日)	8,655	0	△4.4	99.7		3,848
18期(2025年12月15日)	8,308	0	△4.0	99.7		3,175
19期(2026年 6月15日)	7,971	0	△4.1	99.7		1,961

(注1) 基準価額の騰落率は税込分配金込み。基準価額は1万口当り。

(注2) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、「投資信託受益証券組入比率」は実質組入比率を記載しています。

(注3) 純資産総額の単位未満は切捨て。

(注4) 当ファンドは、特定のベンチマークに連動する運用、あるいはそれを上回る運用を目指すものではありません。したがって当ファンドはベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

■当期中の基準価額と市況の推移

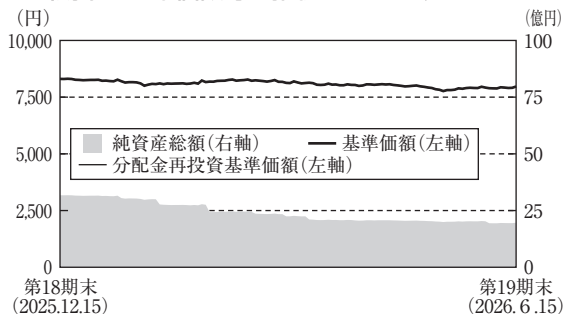
年 月 日	基 準 価 額	騰 落 率		投資信託受益証券 組 入 比 率
		騰	落	
(期 首) 2025年12月15日	円 8,308		% -	% 99.7
12月末	8,225	△1.0		99.8
2026年 1月末	8,102	△2.5		99.4
2月末	8,256	△0.6		99.5
3月末	8,049	△3.1		99.9
4月末	7,976	△4.0		99.6
5月末	7,903	△4.9		99.9
(期 末) 2026年 6月15日	7,971	△4.1		99.7

(注1) 期末基準価額は税込分配金込み。基準価額は1万口当り。騰落率は期首比。

(注2) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、「投資信託受益証券組入比率」は実質組入比率を記載しています。

(注3) 当ファンドは、特定のベンチマークに連動する運用、あるいはそれを上回る運用を目指すものではありません。したがって当ファンドはベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

■当期中の基準価額等の推移について(第19期:2025年12月16日～2026年6月15日)



第19期首: 8,308円

第19期末: 7,971円(既払分配金0円)

騰落率: -4.1%(分配金再投資ベース)

* 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

* 分配金再投資基準価額は、前期末の基準価額に合わせて指数化しています。

◇運用担当者コメント
投資環境について

当期は、日銀の利上げ観測、米国の金融政策見通しの変化、中東情勢を受けたエネルギー価格上昇が主要な焦点となりました。12月は米連邦準備制度理事会(FRB)の利下げ観測が変動する中、米国債券は下落(金利は上昇)し、国内債券も日銀の利上げ観測などを背景に下落しました。1月は財政悪化懸念や日銀の利上げ観測から国内債券の金利が上昇した一方、欧州債券は物価指標の減速や欧州中央銀行(ECB)高官の発言を受け、ほぼ横ばいとなりました。2月は米雇用軟化懸念やイラン情勢を受けたリスク回避の動きから米国債券は上昇(金利は低下)し、国内債券と欧州債券も上昇しました。3月以降は、米国によるイランへの軍事攻撃や原油高を背景にインフレ再加速懸念が高まり、米国債券、国内債券、欧州債券はいずれも下落しました。4月から5月にかけては、米・イラン停戦協議の難航や原油価格の反発などを契機とした米インフレ加速懸念やFRBの利上げ観測、国内では補正予算を巡る財政悪化懸念などから、米国債券、国内債券は下落しました。

こうした環境下、前期末対比では米国債券は中東情勢やインフレ再燃懸念、FRBの利下げ観測後退などを背景に金利が上昇しました。欧州債券はエネルギー価格上昇やECBの利上げ観測が金利上昇要因となりました。国内債券は、日銀の利上げ観測、財政拡張・財政悪化懸念、国内物価上昇圧力を背景に、金利が大幅に上昇しました。

ポートフォリオについて

<当ファンド>

当期を通じて、当ファンドでは、「ボンドETFセレクト・マザーファンド(為替ヘッジあり)」を高位に組入れた運用を行いました。

<ボンドETFセレクト・マザーファンド(為替ヘッジあり)>

円ヘッジ後利回りの効率的な獲得を目指し、金利変動に伴う価格変動リスクや為替ヘッジコスト等を考慮したポートフォリオを構築しました。直近の金利動向や通貨調整後利回りの魅力度を勘案し、引き続き円建て債券にのみ投資したポートフォリオで利回り獲得を目指しました。利回り積み上げ要因がプラスだった一方、金利上昇等を背景に価格変動要因からのリターンがマイナスとなりました。

基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額の期中騰落率は-4.1%となりました。当期、主要投資対象である「ボンドETFセレクト・マザーファンド(為替ヘッジあり)」が下落したことが当ファンドのマイナス要因となりました。

■組入ファンドの当期間中の騰落率

組入ファンド	騰落率
ボンドETFセレクト・マザーファンド(為替ヘッジあり)	△3.9%

ベンチマークとの差異について

当ファンドは、特定のベンチマークに連動する運用、あるいはそれを上回る運用を目指すものではありません。したがって当ファンドはベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

分配金について

収益分配金は基準価額水準、市場動向等を勘案して見送りとさせていただきます。留保益の運用につきましては、運用の基本方針に基づき運用を行います。

社債市場は、ファンダメンタルズ(基礎的条件)は相対的に安定的に推移すると見られますが、リスクオフ局面においては社債などのリスク性資産が売られやすいため、動向を注視していきます。

■分配原資の内訳(1万口当り)

項目	当期 2025年12月16日 ～2026年6月15日
当期分配金(税込み)	－円
対基準価額比率	－％
当期の収益	－円
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	1,088

- (注1)「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。
また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
- (注2) 円未満は切り捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。
- (注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針について

<当ファンド>

引き続き、主要投資対象ファンドである「ボンドETFセレクト・マザーファンド(為替ヘッジあり)」を高位に組入れる運用を行う方針です。

<ボンドETFセレクト・マザーファンド(為替ヘッジあり)>

米トランプ政権の政策や地政学リスクの状況次第では短期的には市場のボラティリティ(変動性)が高まる可能性があります。しかし、堅調な経済指標や良好な企業決算が中長期的にはリスク性資産を下支えすると考えます。

債券市場については、FRBのケビン・ウォーシュ議長のもとでの金融政策の行方など不透明感の強い状況が続く一方、ECBでは持続的な利上げサイクルに入るという観測は限定的とみられるため慎重に金利リスクを調整していく方針です。

◇ファンド状況

■1万口当りの費用明細

項目	第19期		項目の概要
	(2025. 12. 16～2026. 6. 15)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	円 12	% 0.148	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は8,088円です。
(投信会社)	(6)	(0.068)	投信会社分は、委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(5)	(0.066)	販売会社分は、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託銀行)	(1)	(0.014)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	－	－	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有価証券取引税	－	－	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用	4	0.047	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保管費用)	(0)	(0.000)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(印刷費用・監査費用等)	(4)	(0.047)	目論見書および運用報告書の作成・印刷費用、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用等の諸費用
(その他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合計	16	0.195	

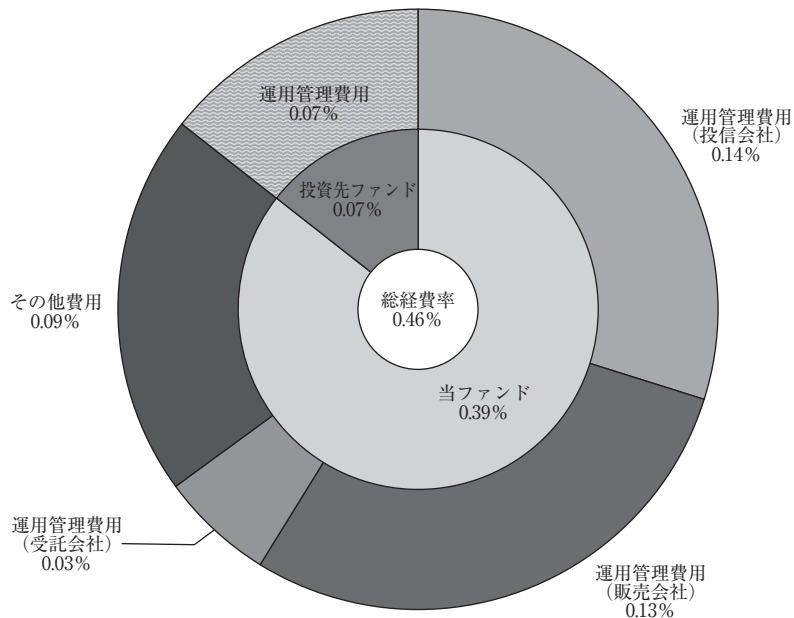
(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当りのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

■総経費率



※当期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は0.46%です。

総経費率(①+②)	0.46%
①当ファンドの費用の比率	0.39%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.07%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

(注8) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

■親投資信託受益証券の設定、解約状況(2025年12月16日から2026年 6月15日まで)

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
ボ ン ド E T F セ レ ク ト ・ マザーファンド(為替ヘッジあり)	千口 370	千円 323	千口 1,269,730	千円 1,113,749

(注) 単位未満は切捨て。

■親投資信託の株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合(2025年12月16日から2026年 6月15日まで)
当期における株式の売買はありません。

■利害関係人との取引状況(2025年12月16日から2026年 6月15日まで)

上記期間における利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第 1 項に規定される利害関係人です。

■組入資産の明細

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
ボ ン ド E T F セ レ ク ト ・マザーファンド(為替ヘッジあり)	千口 3,553,649	千口 2,284,289	千円 1,966,316

(注 1) 単位未満は切捨て。

(注 2) 親投資信託の受益権総口数は2,284,289千口です。

■ボンドETFセレクト・マザーファンド(為替ヘッジあり)組入資産の明細(2026年 6月15日現在)

下記は、ボンドETFセレクト・マザーファンド(為替ヘッジあり)全体(2,284,289千口)の内容です。

国内投資信託受益証券

銘 柄		期 首(前期末)	当 期 末	
		口 数	口 数	評 価 額
iシェアーズ・コア 日本国債 E T F		千口 1,489	千口 960	千円 1,955,584
合 計	口 数 ・ 金 額 銘 柄 数・〈比 率〉	1,489 1銘柄	960 1銘柄	1,955,584 〈99.5%〉

(注 1) 合計欄の〈 〉内は、純資産総額に対する評価額の比率です。

(注 2) 口数、評価額の単位未満は切捨て。

◇資産状況

■投資信託財産の構成

2026年 6月15日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
ボンドETFセレクト・マザーファンド(為替ヘッジあり)	千円 1,966,316	% 100.0
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	-	-
投 資 信 託 財 産 総 額	1,966,316	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2026年 6月15日現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	1,966,316,578円
ボンドETFセレクト・マザーファンド (為替ヘッジあり)(評価額)	1,966,316,578
(B) 負 債	4,720,012
未 払 信 託 報 酬	3,594,655
そ の 他 未 払 費 用	1,125,357
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	1,961,596,566
元 本	2,460,927,088
次 期 繰 越 損 益 金	△ 499,330,522
(D) 受 益 権 総 口 数	2,460,927,088口
1万口当り基準価額(C/D)	7,971円

<注記事項>

期首元本額	3,822,280,454円
期中追加設定元本額	400,058円
期中一部解約元本額	1,361,753,424円

■損益の状況

自2025年12月16日 至2026年 6月15日

項 目	当 期
(A) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 78,208,299円
売 買 益	19,544,972
売 買 損	△ 97,753,271
(B) 信 託 報 酬 等	△ 4,720,012
(C) 当 期 損 益 金(A+B)	△ 82,928,311
(D) 前 期 繰 越 損 益 金	△415,873,649
(E) 追 加 信 託 差 損 益 金	△ 528,562
(配 当 等 相 当 額)	(23,912,432)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 24,440,994)
(F) 合 計(C+D+E)	△499,330,522
次 期 繰 越 損 益 金(F)	△499,330,522
追 加 信 託 差 損 益 金	△ 528,562
(配 当 等 相 当 額)	(23,912,776)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 24,441,338)
分 配 準 備 積 立 金	243,952,776
繰 越 損 益 金	△742,754,736

(注1) 損益の状況の中で有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中の信託報酬等には、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注3) 損益の状況の中で追加信託差損益金とは追加信託の際、追加代金と元本の差額をいいます。

(注4) 親投資信託の投資信託財産の運用指図に係わる権限の全部又は一部を委託するために要する費用として委託者報酬の中から支弁している額は、756,413円です。

■当期の分配金

当期の分配金は見送らせていただきました。

(注) 第19期計算期末における、費用控除後の配当等収益(8,007,365円)、費用控除及び繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(0円)、収益調整金(有価証券売買等損益相当額)(0円)、収益調整金(その他収益調整金)(23,912,776円)、分配準備積立金(235,945,411円)により、分配対象収益は267,865,552円となりましたが、委託会社が基準価額水準・市況動向等を勘案し、当期は分配を見合わせました。なお留保金につきましては、引き続き元本部分と同一の運用をしていきます。

◇お知らせ

ブラックロック・BEST(為替ヘッジあり)／年2回決算型)

1. 当ファンドの信託期間を延長することにより、長期投資の機会を提供することが受益者の利益に資すると判断したため、信託期間を5年間延長する投資信託約款の変更を行いました。

(変更日 2026年3月14日)

2. 一般社団法人投資信託協会が、一般社団法人日本投資顧問業協会と2026年4月1日付で合併し、「一般社団法人資産運用業協会」に名称を変更することとなったため、投資信託約款に所要の変更を行いました。

(変更日 2026年4月1日)

運 用 報 告 書

－第9期－ 決算日 2025年12月15日
計算期間(2024年12月17日～2025年12月15日)

ボンドETFセレクト・マザーファンド(為替ヘッジあり)

※ 「ブラックロック・BEST(為替ヘッジあり／年2回決算型)」が組入れている親投資信託の決算日は年1回(12月15日)です。よって当親投資信託の運用状況につきましては、直前の計算期間(決算)である2025年12月15日現在の内容を記載いたしております。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

決 算 日	12月15日(ただし休業日の場合は翌営業日)
運 用 方 針	円ベースでの安定的なインカム収益の獲得と中長期的な信託財産の成長を目標に運用を行います。
主要運用対象	先進国(日本を含む)の投資適格債券に投資するブラックロック・グループが運用する上場投資信託証券を投資対象とします。なお、円建ての債券に投資する場合があります。
組 入 制 限	①株式への投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の30%以下とします。 ②外貨建資産への投資割合には制限を設けません。 ③上場投資信託証券への投資割合には制限を設けません。

◇基準価額の推移

■最近5期の運用実績

決 算 期	基 準	価 額	投 資 信 託 受 益 証 券 率 組 入 比 率	純 資 産
		期 中 騰 落 率		
	円	%	%	百万円
5 期(2021年12月15日)	10,674	△0.3	99.0	8,151
6 期(2022年12月15日)	9,978	△6.5	92.4	5,839
7 期(2023年12月15日)	9,934	△0.4	97.9	4,994
8 期(2024年12月16日)	9,722	△2.1	99.5	4,707
9 期(2025年12月15日)	8,954	△7.9	99.5	3,181

(注1) 基準価額は1万口当り。

(注2) 純資産総額の単位未満は切捨て。

(注3) 当ファンドは、特定のベンチマークに連動する運用、あるいはそれを上回る運用を目指すものではありません。したがって当ファンドはベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

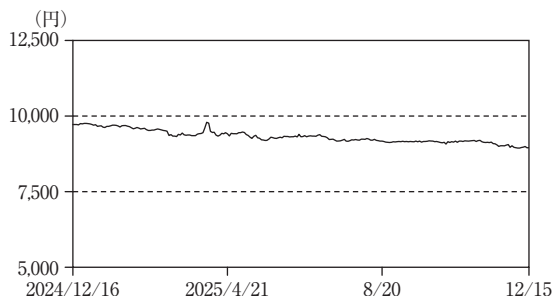
■当期中の基準価額と市況の推移

年 月 日	基 準	価 額	投 資 信 託 受 益 証 券 率 組 入 比 率
		騰 落 率	
(期 首) 2024年12月16日	円	% -	% 99.5
12月末	9,726	0.0	99.8
2025年1月末	9,666	△0.6	99.3
2月末	9,541	△1.9	100.3
3月末	9,420	△3.1	99.7
4月末	9,450	△2.8	99.6
5月末	9,265	△4.7	99.4
6月末	9,332	△4.0	99.7
7月末	9,207	△5.3	99.5
8月末	9,144	△5.9	98.8
9月末	9,173	△5.6	99.4
10月末	9,194	△5.4	99.6
11月末	9,059	△6.8	99.4
(期 末) 2025年12月15日	8,954	△7.9	99.5

(注1) 基準価額は1万口当り。騰落率は期首比。

(注2) 当ファンドは、特定のベンチマークに連動する運用、あるいはそれを上回る運用を目指すものではありません。したがって当ファンドはベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

■当期中の基準価額等の推移について(第9期:2024年12月17日~2025年12月15日)



◇運用担当者コメント

通期では、当ファンドの基準価額の騰落率は-7.9%となりました。

上半期(2024年12月17日から2025年6月16日まで) 投資環境について

当上半期、主要国の資本市場では、米国新政権の政策や金融政策を巡る観測、またはマクロ経済に対する見通しなどが焦点となりました。

上半期初、12月18日のFOMC(米連邦公開市場委員会)にて、FRB(米連邦準備制度理事会)の2025年以降の利下げ見通しが限定的な水準となったことで、再度金利上昇の動きが活発化しました。インフレ指標の軟化をうけた2月より米国債金利は低下しました。4月、米国当局への信認低下を意識した米国国債売り圧力もあり金利が大幅に上昇する局面が見られました。また、各国の財政拡大への警戒感から特に超長期債の金利が上昇し、世界的にイールドカーブがベア・スティープ化しました。

このような市場環境の下、先進国国債(米国、日本、英国、欧州)では、長期債利回りが前期末比で上昇(価格は下落)しました。一方、オーストラリア準備銀行における追加利下げが引き続き期待されたことなどから、豪州の長期債利回りは低下(価格は上昇)しま

した。米国や英国の投資適格社債の信用スプレッドは前期末比では拡大した一方、欧州の投資適格社債の信用スプレッドは縮小しました。為替ヘッジコスト(3ヶ月為替フォワード)は、前期末比で米ドル・円、ユーロ・円、英ポンド・円、豪ドル・円は共に低下しました。

ポートフォリオについて

円ヘッジ後利回りの効率的な獲得を目指し、金利変動に伴う価格変動リスクや為替ヘッジコスト等を考慮したポートフォリオを構築しました。直近の金利動向や通貨調整後利回りの魅力度を勘案し、引き続き円建て債券にのみ投資したポートフォリオで利回り獲得を目指しました。利回り積み上げ要因が小幅にプラスだった一方、金利上昇等を背景に価格変動要因からのリターンがマイナスとなりました。

下半期(2025年6月17日から2025年12月15日まで) 投資環境について

当下半期は、FRB(米連邦準備制度理事会)の利下げ観測とその修正、各国金融政策スタンスの相違が主要な焦点となりました。

6月は米金融緩和期待や銀行規制緩和観測を背景に先進国の長期金利が低下し、債券相場は堅調に推移しました。7月は日米金融政策や通商交渉の不透明感から方向感に欠け、金利はやや上昇したもののレンジ内の動きにとどまりました。8月はFRBの利下げ期待から主に短期金利が低下(価格は上昇)してカーブはブル・スティープ化しました。9月は引き続き米国で利下げ織り込みが強まり、短期から長期まで金利が広く低下した一方、その他先進国では短中期が上昇・長期が低下とまちまちの動きとなりました。10月はFRBの利下げ決定後、米金利が反転上昇(価格は下落)する局面も見られました。11月以降

は12月利下げに慎重なF R B高官の発言を受け金利が一時上昇したものの、その後のウィリアムズ・ニューヨーク連銀総裁のハト派発言で金利は再び低下しました。

こうした環境下、上半期末対比では米国債券は金利低下し、英国債券はほぼ横ばい、欧州債券は金利が上昇しました。日本債券は、新政権による積極財政による財政悪化懸念や、日銀による利上げ見通し等を背景に、金利が大幅に上昇しました。

ポートフォリオについて

円ヘッジ後利回りの効率的な獲得を目指し、金利変動に伴う価格変動リスクや為替ヘッジコスト等を考慮したポートフォリオを構築しました。直近の金利動向や通貨調整後利回りの魅力度を勘案し、引き続き円建て債券にのみ投資したポートフォリオで利回り獲得を目指しました。利回り積み上げ要因がプラスだった一方、金利上昇等を背景に価格変動要因からのリターンがマイナスとなりました。

今後の運用方針について

米トランプ政権の政策や地政学リスクの状況次第では短期的には市場のボラティリティ(変動性)が高まる可能性があります。しかし、底堅い経済指標や良好な企業決算が中長期的にはリスク性資産を下支えすると考えます。債券市場については、F R Bの今後の金融政策や新議長人事など不透明感の強い状況が続く一方、欧州中央銀行(E C B)では利下げ打ち止め観測が強まるなか方向感は限定的とみられます。社債市場は、ファンダメンタルズ(基礎的条件)は相対的に安定的に推移すると見られますが、リスクオフ局面においては社債などのリスク性資産が売られやすいため、動向を注視していきます。ポートフォリオにおいては、直近の金利動向や通貨調整後利回りの魅力度を勘案し、引き続き円建て債券にのみ投資

したポートフォリオで利回り獲得を目指す方針です。

◇ファンド状況

■1万口当りの費用明細

項 目	当 期
(a) 売買委託手数料 (投資信託受益証券)	円 0 (0)
(b) 有価証券取引税	-
(c) その他費用 (保管費用) (その他)	0 (0) (0)
合 計	0

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加、解約により受益権口数に変動があるため、下記の簡便法により算出した結果です。

(a) 売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 / 期中の平均受益権口数

(b) 有価証券取引税 = 期中の有価証券取引税 / 期中の平均受益権口数

(c) その他費用 = 期中のその他費用 / 期中の平均受益権口数

(注2) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

◇運用内容

■売買及び取引の状況(2024年12月17日から2025年12月15日まで)

投資信託受益証券

		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
国内	iシェアーズ・コア 日本国債 ETF	千口 -	千円 -	千口 519	千円 1,165,771

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄(2024年12月17日から2025年12月15日まで)

投資信託受益証券

当				期			
買		付		売		付	
銘 柄	口 数	金 額	平均単価	銘 柄	口 数	金 額	平均単価
-	千口 -	千円 -	円 -	iシェアーズ・コア 日本国債 ETF	千口 519	千円 1,165,771	円 2,245

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産の明細

国内投資信託受益証券

銘 柄		期 首(前期末)	当 期		末
		口 数	口 数	評 価 額	
iシェアーズ・コア 日本国債 ETF		千口 2,008	千口 1,489	千円 3,167,174	
合 計	口 数 ・ 金 額 銘 柄 数 ・ 〈 比 率 〉	2,008 1銘柄	1,489 1銘柄	3,167,174 〈99.5%〉	

(注1) 合計欄の〈 〉内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注2) 口数、評価額の単位未満は切捨て。

◇資産状況

■投資信託財産の構成

2025年12月15日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投 資 信 託 受 益 証 券	3,167,174	99.4
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	20,202	0.6
投 資 信 託 財 産 総 額	3,187,377	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2025年12月15日現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	3,187,377,207円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	20,202,723
投資信託受益証券(評価額)	3,167,174,484
(B) 負 債	5,425,794
未 払 解 約 金	5,425,794
(C) 純 資 産 総 額(A－B)	3,181,951,413
元 本	3,553,649,792
次 期 繰 越 損 益 金	△ 371,698,379
(D) 受 益 権 総 口 数	3,553,649,792口
1 万口当り基準価額(C／D)	8,954円

<注記事項>

期首元本額	4,841,978,814円
期中追加設定元本額	1,188,342円
期中一部解約元本額	1,289,517,364円

期末における元本の内訳

ブラックロック・BEST(為替ヘッジあり／年2回決算型)	3,553,649,792円
合計	3,553,649,792円

■損益の状況

自2024年12月17日 至2025年12月15日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	40,748,424円
受 取 配 当 金	40,746,265
受 取 利 息	2,159
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△351,706,287
売 買 損 益	△351,706,287
(C) そ の 他 費 用	△ 58,690
(D) 当 期 損 益 金(A+B+C)	△311,016,553
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	△134,608,678
(F) 解 約 差 損 益 金	74,013,283
(G) 追 加 信 託 差 損 益 金	△ 86,431
(H) 合 計(D+E+F+G)	△371,698,379
次 期 繰 越 損 益 金(H)	△371,698,379

(注1) 損益の状況の中で有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で追加信託差損益金とは追加信託の際、追加代金と元本の差額をいいます。

(注3) 損益の状況の中で解約差損益金とは中途解約の際、解約代金と元本の差額をいいます。

◇お知らせ

ボンドETFセレクト・マザーファンド(為替ヘッジあり)

投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に伴い、投資信託約款の「運用報告書」に関する条文を変更しました。

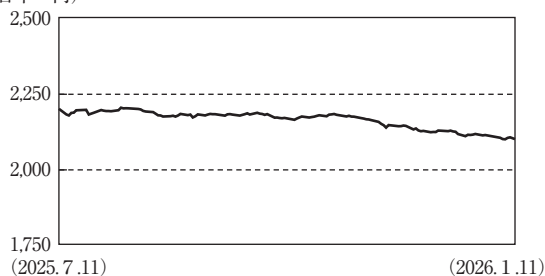
(変更日 2025年4月1日)

◇マザーファンドの組入上位ファンドの概要

◆iシェアーズ・コア 日本国債 ETF

○基準価額の推移

(日本・円)



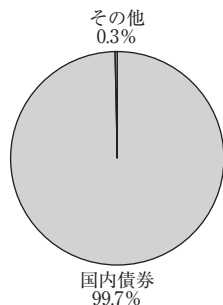
○上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
379 10年国債	日本・円	1.6%
380 10年国債	日本・円	1.4
178 5年国債	日本・円	1.4
376 10年国債	日本・円	1.3
378 10年国債	日本・円	1.3
375 10年国債	日本・円	1.3
377 10年国債	日本・円	1.2
179 5年国債	日本・円	1.1
374 10年国債	日本・円	0.9
37 30年国債	日本・円	0.8
組入銘柄数	275銘柄	

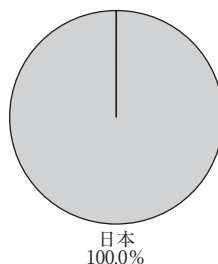
○1万口当りの費用の明細

当該情報の取得が不可能であるため記載しておりません。

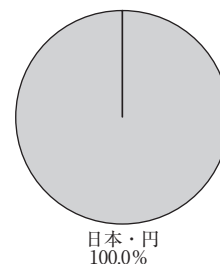
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

(注2) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注3) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

* 当社適時開示資料作成にあたり使用しておりますブラックロック・グループのデータに基づき記載しております。